

に教えるとなると、異なる部分の脳が刺激されます。知識を頭の中でコンパクトに整理する力に関わる脳が開発されるのです。しかも、グループは多様な能力、性格の生徒が混在するように配慮しています。よく理解できない生徒には分かりやすい言葉で丁寧に伝えることが大切で、コミュニケーション能力が高まります。逆に、優秀な生徒からは鋭い質問が飛び、それにもよく考えて的確に対応しなければなりません。今まで使っていなかった脳が活性化される効果は大きいのです。

―入試の面接、グループ討論などでも役立ちそうです。

田村 もちろんです。グループ討論では、コミュニケーション能力と同時に、協調性がチェックされます。将来、チーム医療に携わる医師にとって不可欠だからです。「Input-Output方式」の授業を通して、多様な考え方を受け入れる姿勢が養われているメデュカパスの生徒は強みを発揮できるでしょう。また、毎朝全員が朝日新聞の「天声人語」、日本経済新聞の「春秋」を読み、書き写すことにしています。当日の話題について友人同士で話し合う姿が見られ、多様な価値観を受け入れる態度にもつながっています。

さらに、医学部ではディスカッション、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニングが豊富です。大学関係者からは、メデュカパスの

卒業生は真つ先に手をあげて、プレゼンテーションに積極的で頼もしいという声が聞かれます。入学後も、日常的に周りの学生に教えることが多いようで、教えた知識は忘れませんから、各大学でトップクラスの成績を収め、国家試験でも余裕で合格しているOB・OGが多いですね。

入試問題の新傾向を分析し 教材に反映させる

―教材についてもご紹介ください。

田村 長年、医学部受験に携わってきたベテラン専任講師が、オリジナルテキストと、難関11大学を対象とした予想問題集を作成しています。毎年の入試問題を詳細に研究し、新傾向問題を含めて改訂しています。

―医学部で、入試問題の傾向が変わることはあるのですか。

田村 はい。たとえば英語では、医学論文を素材に使うケースが増えています。コミュニケーション能力の重視を受けて、会話文やメールの英文などもよく見られます。いずれも高校までの授業では慣れない形式ですから、特別な対策が必要です。メデュカパスでは、そうした入試問題の傾向をしっかりと研究・分析し、オリジナルテキストや予想問題集に反映させています。ただし、英語では前期はオーソドックスな英文講読を積みます。一般的な英文解釈力を身につけることが先決だからです。

その上で、私立医学部の出題傾向に則した独特の英文に、徹底的に触れることができるように、強みがあると考えています。

規則正しい生活と食事も 学習向上の二環と位置づける

―卒業生からは「面倒見の良さも魅力」という声が聞かれます。

田村 メデュカパスでは、規則正しい食事と生活リズムの確立を、学力向上の一環と位置づけています。朝9時から夜9時まで強制的に勉強させますが、夕食は30分間、時間を決めてみんなで食べます。管理栄養士が献立を作り、毎月、その献立表を家庭にも送付しています。そのほか、各家庭には、毎週、「学習報告書」を送っています。

―家庭への「学習報告書」はどんな内容なのですか。

田村 出欠、遅刻・早退などの状況や、「天声人語」「春秋」の書き写しやテストのやり直しといった提出物の提出状況などです。「確認テスト」の成績も含まれており、平均点よりも10点以上低い場合は赤点で表示されます。

そのほか、寮生が病気になる時は、スタッフが病院に同行します。インフ

ルエンザが流行する時期には、毎日検温をして、手の消毒も徹底します。病気で登校できない生徒には、その日の授業のプリントを渡し、お弁当も届けます。少人数制なので、一人ひとりの状態もよく把握しており、落ち込んでいる様子のときはすぐに声をかけますから、深刻な精神状態に陥るケースはまずありません。厳しい受験勉強を乗り切ってもらいためには、学習面の指導だけをしていただければいいわけではありません。こうした手厚いサポート体制で、生活面も整えることが、精神的な安定を生み、勉強への意欲を高めるという信念を持っています。

